

---

# 十 詩集 十 言ノ葉

春蘭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

十詩集十言ノ葉

### 【Nコード】

N1537B

### 【作者名】

春蘭

### 【あらすじ】

どうか、この言ノ葉がひとりでも多くの人に響くよう、願います。

## 桜吹雪

『片想い』

届かない  
届かない

こんなにも  
側にいるのに

叶わない恋  
そうでもない

星になって  
いつも見守れたら

雨になって  
君に触れたら

風になって  
貴方を包めたら

涙が出るほど  
幸せです

動けない  
動けない

昨日も今日も  
見つめるだけ

明日も明後日も  
勇気は持てない

それでも私は  
貴方が好きです

『愛情表現』

愛と呼べる程  
優しくなくて  
恋と言うには  
苦味が強い

純愛かは  
自信無いけど  
気持ちは  
真剣だから

『愛してる』なんて  
甘い言葉  
恥ずかしくて  
言えないけど

抱きしめる事は  
できるよ

これが僕の  
精一杯の愛情表現

好きなんだ  
君の事が

僕の気持ち伝わったかな？

『笑顔』

寂しい時は  
抱きしめてあげる

怒ってる時は  
優しい口づけを

泣きたい時は  
手を繋いで

不機嫌な時は  
何も言わずに  
側に居るから

ねえ  
笑顔をみせて…

『相對』

幾度と流した

この涙

報われない想いは  
柳に風

サヨナラなんて  
言葉だけ

醜い嫉妬は  
弱い私の自己防衛

見つめるしか  
できない恋

それで幸せなんて  
哀しい嘘

年 性別 距離  
邪魔するものばかり

二人の仲は空と海

重なる事は  
決して有り得ないから

『幸せ』

例えば

貴方が隣に

いるのに

寂しかったり

例えば

大好きな

貴方の笑顔が

切なかったり

矛盾した気持ち

なぜか溢れてくるの

私がそう言つと

君は

『幸せ過ぎて怖いんだね』

なんて

優しく微笑んで

言うから

私は

妙に納得したりして

幸せをこの上なく

感じたの

狂想曲

『狂想曲』

狂った歯車は  
素敵な音色

冷たい雨のメロディ  
流れる

哀しい嘆きは  
子守唄

銀に光る月の  
調べをのせて

さあ作ろう

狂想曲を

『僕等の唄』

例え雨が降っても  
鍵をかけないで

地図をなくしたって  
嘆く事はないさ

僕等はいつだって  
乗り越えて  
きただろう？

降りてきた遮断機は  
飛び越えて

揺れる橋は  
気にしない

さあ走り出すんだ

寂しいなんて  
言わせないさ  
僕がいつでも  
側にいる

星空を眺めるときも  
春風を感じるときも

繋いだ手の存在を  
忘れないで

『幸福論』

幸せは

求めるモノじゃない

気が付けば

隣にいるモノなんだ

探したって

見つからないかも

しれないけど

願うことはできるから

その事に

早く気付いて

『本意』

泣くくらいなら

言わなきゃいいのに

怒るくらいなら

認めなきゃいいのに

嘆くくらいなら  
忘れればいいのに

どうして僕等は  
こんなにも不器用？

何に恐れて  
何に魅かれる？

どうすればいいか  
なんて

考えて分かる事じゃ  
ないというのにね……

『現実逃避』

夢から覚めたら  
あまりに周りが  
リアル過ぎて

ソレから  
逃げ出したかった

もう一度  
目を瞑っても

夢を見る事は  
叶わなくて

結局僕は

無駄と

わかってる事に  
必死にすがりついて

眠る眠る

何度でも

見放された事に  
気付くまで

『いつか、きつと』

きつと

誰にも罪なんか  
無いんだ

ただ

僕等を取り巻く  
環境が  
変わってしまった

それだけの事

だからどうか  
嘆かないで

後悔は涙と流して  
笑顔を取り戻そう

いつか

この世界で

もう一度

出会えたなら

奇跡と喜んで

優しく

抱き合える様に

## 流星群

『サヨナラ』

言葉はいらない

涙もこれで終わり

約束はしないで

繋いだ掌離そうよ

いつもみたいに

『またね』って

笑顔で手をふって

見えない所まで走って

もう

振り返らないで…

『Moon』

泣いては笑い  
傷付いては癒されて  
その繰り返し

例えるなら  
そう

夜空に浮かぶ月

欠けては満ちて  
満ちては消えて  
なんて儂い

幸せになった分だけ  
悲しむ時が  
くるのだろうか

気持ちは少しずつ  
ふくらんで  
思いきり愛したら  
その後想いは消える？

嗚呼ほら

今宵は満月

新月がくるその日まで  
私の想い  
どうか消えないで

『絆』

あなたが笑うなら  
私も笑顔になる

あなたが辛い時は  
私は黙って  
手を差しのべる

あなたが  
泣こうものなら  
私はたえる

あなたが怒るなら  
私はそれを全て  
受け入れる

あなたが望むなら  
私はいつだって  
側にいて

あなたが歩むなら  
私はそれを  
笑顔で見送る

私は決して

あなたを  
無理強いする事は  
ない

私はあなたを  
引き止める権利は  
持ち合わせてなく

あなたを守る  
義務があるから

あなたの幸せは  
私の幸せ

あなたのためなら  
喜んで犠牲に  
なるでしょう

『思い出』

自分を責めないで

過去なんて儚いもの

まるで夢や幻を  
見ていた様な

そんな感覚

罪にかられないで  
忘れる努力は  
しなくていいから

思い出にするの

そんな事もあったと  
笑える日が  
きつと来るわ…

## 遠影碧空

『記憶』

あの日祈った幸せ

強く願った笑顔

望んでた夢

誓いあった永遠

決して忘れないで……

『愛別離苦』

もう再び会う事を

信じる事すら

できないのなら

最後とわかってる

今日を私に下さい

今日だけは

ずっと片時も離れずに  
側にいさせて

離れ難い気持ちを  
表すかの様に  
何度も何度も  
すいよせられる  
くちづけ

苦い涙の味を  
感じたの

一日は早く  
夜は明けて朝がくる  
儂かったふたりの時間

『…サヨナラ』

眠った私に貴方は呟く

別れの言葉は  
言わないで

約束は強要しないから

重荷になるなら  
何もしない

望まない

願わない  
祈らない

だから  
どうかお願い  
突き放さないで

『悲恋歌』

貴方の存在が  
私の幸せ

貴方を失った今  
残された私はどう  
生きていけばいい？

腫れるくらい  
瞳うるわせても

飽きるくらい  
涙流しても

枯れるくらい  
泣き叫んでも

声も聞けない

笑顔も見れない

触れる事すら叶わない

貴方はもういない

『狂恋』

好きなんて

言ったところで

何も意味を

成さない

見てるだけで幸せ？

側にいれば

それでいい？嘘よ

私だけに話して

私だけに笑って

私だけを愛して

私のために苦しんで

私のために優しくなって

私のために怒って

私のために涙を流して

私だけのために狂って…

『愛くるしい』

いつから僕等は  
すれちがったんだろう？

あんなにも  
求め合っていたあの日々は  
どこにいったの？

愛しいと思う気持ちは  
止まらないのに  
僕等は傷付けあってばかり

酷く幼くて  
呆れるくらい不器用で  
こんなにも天邪鬼

ねえ  
あの頃に戻りたいと思うのは  
僕の我儘？

## 姫物語

『シンデレラ』

12時の鐘

それは別れの合図

ほら

鳴り響いてる

貴方は僕に

背を向けて

走り去って行く

ねえ

僕等は今日で

お別れだけど

いつか

この人混みの中

貴方を迎えに行くから

その時まで

運命を信じて

待っていてくれないか？

『かぐや姫』

最後の夜

止められない運命

別れの鎮魂曲

どうか今だけは

貴方の隣

いさせてほしい

私達に明日は

もうないから

今を何よりも

愛しましょう

幸せな結末が

待っていない事くらい

私は気付いてた

「離れたくない」

そんな愚かな戯言は

闇へと葬りましょう

月の光が

私達を照らす

涙を流して

別れる前に

今は今だけは  
抱きしめあつて  
愛を囁いて

繋いだ手と手  
伝えたい想い  
断ち切つて

どうか涙に濡れた  
この顔が  
月明かりに  
照らされてない事を  
祈ります

まわる歯車  
光る満月  
去つてゆく風

誰よりも愛しています

『眠り姫』

雪のように白い肌  
薔薇のような真紅の唇  
閉じた瞳は何色？

君が目覚たら  
どんなに  
幸せな事だろう

君に触れた指先から  
伝わる感触体温

かたくて冷たい

こんな君を  
僕は知らない

永遠の眠り姫  
どうか目覚めて

僕の言葉で  
僕の涙で  
僕のキスで  
お伽話とは違うんだ…

『人魚姫』

ただ純粹に会いたい  
そう思ったから  
私は声と存在を捨てた

その行動に  
迷いも後悔も無い

でも貴方の  
側に居れば居る程  
切なくなつて  
初めて恋を知つた

けれど運命とは  
皮肉なもので

貴方の幸せは  
私の悲劇  
私の幸せは  
貴方の足枷

私の願いは儚く消えた  
ならば貴方が  
幸せになるよう  
祈ります

叶う事のない  
この想いは

泡と共に消えましょう

雪花紅染

新月の夜

今夜もわたしは

血を求め

君に狂った鬼となる

『百合』

鮮やかな紅も

濁った緋も

くらくらと目眩がする

朱に染まりゆく己が

怖くて 怖くて 怖くて

なのに

魅了されてるから

きっと自分は

狂ったんだって

自覚した

『椿』

貴方には紅が似合う

白い肌によく映える

怖がらなくていい

ほら真つ赤に染めなよ

掌も頬も肩も髪も

心さえも

『紅血ワイン』

貴女の首筋に

歯を立てて

温かい血を吸いあげる

なんて美味

もつと欲しい

まだ足りない

軀が熱に侵される

なんて強いアルコール

嗚呼すつかり

酔ってしまった

それでも僕は

まだ足りない

貴女の首筋を

絶え間なく

吸いあげるのさ

貴女の吐息で

髪が揺れた

息があがって苦しそう

それでも僕は  
止めたりしない  
完全に貴女に  
溺れてしまった

きっと僕は  
もう抜け出せない

今宵も極上のワインを  
僕に……  
僕だけに下さい

『運命・輪廻』

こんな結末  
誰も望んでない

いつだって  
祈ったのは  
変わらぬ想い

それでも永遠は  
いつも儚くて  
平気で誰かを傷つける

残酷な真実は

目をそらす事さえ  
許されない

歪んだ感情

浮かべる冷笑

告げた別れ

全てが運命に流される

嗚呼 無情

望んだ幸せは……  
どこ？

そんな顔で見ないでほしい

泣かないで

悲しいじゃない

本当に怖いと感じるなら

潔く散るか

殺す気で止めてみせてよ

もう私ノ理性ハ  
働カナイカラ

花鳥風月（前書き）

タイトルの通り、【花】【鳥】【風】【月】を題に作りました。

## 花鳥風月

『一輪の花』

それはきつと

砂漠に生まれた運命

誰も見ない

誰も知らない

誰も気付かない

どんなに揺れても

わたしを見てはくれないの

ねえ……

どうして？

せめてオアシスに咲けば

良かったのかな

砂漠のと真ん中

強すぎる日射し

都合のいい屋気楼

渴いた心

涙でしか潤せない

誰か誰か誰か

早く来て

『籠の中の鳥』

逃がしたくない

でも優しくしたい

だけど不安

僕のもとから

君はいつでも抜けれる

広い空に羽ばたいていくの？

僕を地面に置き去りにして？

嫌だ

お願い行かないで

僕の側について

愛しくて仕方ないんだ

だから僕は

その自由な翼を

引き裂いてむしって

飛べなくした

真っ白な羽が舞う

僕は笑った

籠の中

君を閉じこめる

鍵は捨てた

だっぺいらないだろう？

君はずっと此処にいるんだから

君の傷付いた翼を

優しく撫でる

もう飛ぶことは叶わない

大丈夫だよ

僕が優しくする

籠の中だっぺ

案外心地好いでしょう

閉じこめるための？

ううん、守るために

赤い鮮血、虚ろな瞳孔

乾いた唇、冷たい指先

籠の中ふたりぼっち

僕は泣いた

『風になって』

風になれたらいいな

何も考えず

何も思わず

西から東に、北から南に

ただ流れるだけの

ゴールも行く先も

決めずに

どこかで待ってる誰かのために

花を濡らし

水を撫で

森を揺らす

何にも縛られず

世界を回る

たくさんの景色を見て

また此処に

戻ってこよう

そして

二周目のスタート

そんなふう生きる

風になりたい

『月下美人』

仄かな明かり

私を照らして

月の調べ

今宵も流れる

ひとりになりたくて

真夜中へ逃げ出したのに

どうしてかな

私を追い掛けるんだね

疎ましい

そう感じたよ

だって

泣けないじゃない

意地悪

でもね気付いたの

貴方の優しさに

月光は

優しくて心地好くて

震えてた私を

包みこんでくれた

貴方の下なら笑える

そんな気がした

ううん、違う

笑えたんだ

冷たい夜に涙した私を

慰めてくれたね

咲こう

今この場所で

貴方が輝く限り

私は枯れない

真夜中

星と月を見上げて

花は開く



## 夢心地

『LOVE & amp; PEACE』

世界に必要なもの

愛と平和

綺麗事と言って

笑わないで

きつといつか気付くから

『英雄』

世界に対しての挑戦

僕はいま

思いきり地面を蹴った

君のためなら

悪者になってもいい

罵られて追放されたとしても

僕は悲しまない

なぜなら僕は

君だけのヒーローだから

君が僕の側にいる限り

僕は君を守る

哀れだと言っかい？

だけど

それだけ大切なんだ

『瞼の裏』

目をつぶれば

貴方がそこにいるから

わたしはまだ

醒めたくないの

分かってる

真実から目をそらしていると

言いたいのでしょう

だけどお願い

もう少し

もう少しだけでも

あの人を想い描くことを

どうか許して

『ひだまり』

眠い理由は

おだやかな陽射しと

心地好い南風と

あなたが隣にいるから

おやすみって

瞼にキスをおとして

昼寝をしましょう

だって今日はこんなにも

小春日より

『プラスマイナス』

寝転んで深呼吸をして

ほら…

泣いてもいいよ

頑張ることは素敵だね

だけど

ときにはさ

肩の力ぬいて

思いきり泣いても

いいんじゃないの？

大笑いしてみようよ

叫んでみて

きつとスッキリするから

休みたいなら

僕の肩を胸を腕を

いっだって貸してあげるわ

## 永遠響歌

『始まりの歌』

蕾が膨らみ葉はしげるとき

始まりの歌をうたおう

なにかが起こる予感

期待に胸をときめかせ

この道を歩こう

道がないなんて嘆かないで

作るのは君

歩いて初めてそこは道になるのだから

空を仰いでさあうたおう

『きざめきの歌』

涙を流したぶんだけ

笑ってみせて

あの日うつたったメロディーは

今も消えずに残ってるでしょう

悲しくなったときは

くちずさんで

嬉しくなったときは

大声だして

ほらみんなでうたおう

『つづく歌』

桜が散ってしまっても

どうか忘れてしまわないで

鍵をかける必要はないはずさ

みんながみんな持つてるリリック

捨てようなんて思わないでよ

いつまでも心に響く旋律

うたうのは誰？

僕らがうたって歌になる

心から消えない詞

明日をみつめて今日も奏でよう

『終わらない歌』

絶望にうちひしがれても

自暴自棄にならないで

優しく癒すバラード

それはきつと心のオアシス

月に照らされた潤いの地

昨日を後悔するならば

未来に胸を踊らせて

ときに周りは厳しいけれど

跳ねるクラシック

それはきつと心のヒマワリ

太陽を浴びる輝きの花

どうか歌うことをやめないで

これは終わらない物語

風に吹かれて今日もつたおう

ひとりでもつたおう

みんなであつたおう



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1537b/>

---

†詩集†言ノ葉

2010年10月9日15時09分発行